

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十一年二月度 入選句(投稿総数二千三百九十二句・一般投句数四百五十八句)

特選

選者 度会 さち子

太極拳 しづかに 冬を押ししてゐる

大垣市

村田 通夫

太極拳のゆっくり息を吐きながらしづかに体をうごかす動作。全身運動で健康に良いとい
う。確かに、足を広げ手を前に押し出す動作は、風邪など流行する冬を押し戻す様だ。言い得
て妙。

風花 や 病臥 の 窓 の 磨 かれて

大垣市

小林 研

きれいに磨かれた窓からみえる青空の風花。病臥にあつた子規が、幾たびも雪の深さをたず
ねるために、外がみえるよう硝子戸にしたという。そんなことを思い出せる句。凜冽とした病室
がみえてくる。

鳴きあうて 白鳥の湖暮れゆけり

福井県敦賀市

山田 美千代

この辺りでは余呉湖だろうか。白鳥が鳴き交わしながら集まってくる。その鳴き声は美声とい
えないが、暮れなずんでいく空に、白鳥は舞いながら次々と白い花を咲かす。白とグレーのコン
トラストがよい。

秀逸

鰯始め 土に息吹をすきこめり

大垣市

棚橋 みさを

若水の柄杓の香り口そそく

不破郡垂井町

中西 弘子

冬滝に一礼をして行者去る

愛知県名古屋

舘野 茂子

冬の鴟寺領の畑に畏一つ

東京都世田谷区

関戸 信治

宅配に濡れ手でサイン年の暮

大垣市

新町 恵子

納屋揺れてエンジン掛かる農始

大垣市

村田 通夫

日のかげら乗せて寒梅ふふみけり

大垣市

田中 雅子

談笑す校長室のシクラメン

大垣市

岡田 あや子

立春の空より弾む鳥の声

三重県四日市市

後藤 允孝

雪折の音を遠きに夜半の床

愛知県豊田市

城山 憲三

入選

水仙の岬の果てやフェリーゆくのつそりと猫きて日向くさきかな	福井県敦賀市	山田 美千代
みどり児に触れさす宮の初手水	東京都世田谷区	関戸 信治
廃校の盆梅展に影ひとつ	大垣市	佐竹 余史美
しつけ糸とりて迎ふる初句会	本巢市	土川 哲生
風紋に潜む寒鯉らしき影	大垣市	遠藤 加容子
臘梅の一枝茶室を満たしをり	岐阜市	花川 和久
バスを待つ子の白杖に春触れむ	岐阜市	島 めぐみ
菜の花や牛小屋赤きトタン屋根	大垣市	小湊 順子
草萌や婚の荷の着く過疎の村	養老郡養老町	森川 きよ子
		田中 紫香

入選

種袋振る種ごとの響して	岐阜市	堀江 美州
臘梅の闇夜かすかに匂ひけり	大垣市	佐藤 すみ子
大樗天に向かひて新芽ふく	大垣市	久保田 悟義
ひとひらの回廊に舞ふ六花	愛知県西尾市	金子 恵美
煤けたる帯戸叩くや年の豆	愛知県豊田市	城山 憲三
京といふ言葉の響き歌留多とる	三重県津市	村山 好昭
煌めける星に遊びて春星忌	長野県下伊那郡	長沼 まさし
寒の夜や錆びて刃の出ぬ肥後守	神奈川県横浜市	龍野 ひろし

選者吟

声明のあと雪踏みて僧の列

さち子